

外国人医療体制整備事業概要【H31予算39,158千円】

背景

- ・直近5年で来阪外国人は約4倍の1110万人に急増。【H30.8月大阪観光局提供】
- ・平成29年は年間約16,000名の外国人旅行者が府内医療機関を受診
【H30外国人患者受入実態調査中間集計】
- ・今年6月に開催されるG20サミット及びラグビーワールドカップをはじめ、2020年の東京オリンピック、さらにはIRや万博誘致を契機に、インバウンドはさらに増加の見込み→来阪外国人患者はさらに増加見通し

外国人医療提供体制整備が急務

主な課題

1. 府全体での受入れ体制の構築

- ①関係各部署の連携
- ②各医療機関の受入れ能力・医療機能ごとの役割分担

2. 医療機関への支援

- ①言語・コミュニケーション支援
- ②相談窓口の設置
- ③受入環境整備支援

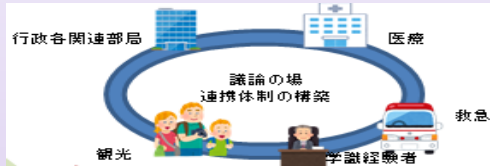
3. 外国人患者支援

- ①言語・コミュニケーション支援
- ②関係機関で連携した効果的な情報発信

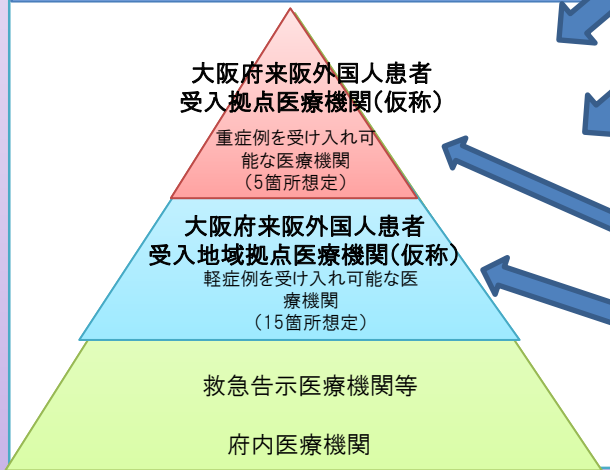
対策事業

1. 外国人受入れ体制の構築

- ①外国人医療対策協議会の設置等
関係者間の協議の場を設置、連携体制を構築
予算:2,209千円

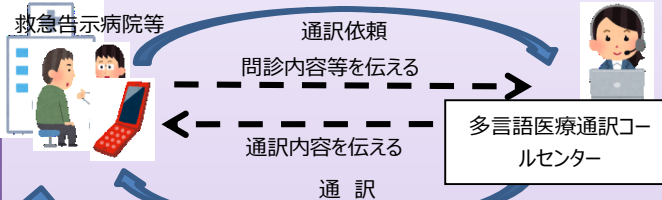


- ②体制構築～拠点医療機関選定【厚労省通知】
重症～軽症と段階毎に外国人患者受入れ医療機関を選定

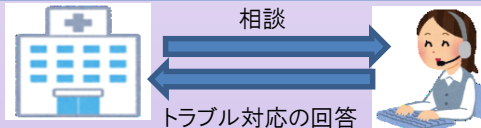


2. 外国人受入れ医療機関への支援

- ①多言語医療通訳コールセンター設置(24時間)
救急患者等への即時対応に向け5か国語で通訳
予算:8,216千円



- ②トラブル相談窓口の設置
医療費未払い等、様々なトラブル相談に対応
予算:9,933千円



- ③-1外国人患者受入拠点医療機関化支援
外国人患者受け入れ医療機関認証制度(JMIP)の受診費用を補助
予算:1,620千円
- ③-2外国人患者受入拠点医療機関環境整備支援
拠点医療機関の問診票等の多言語化に係る費用を補助
予算:17,000千円

3. 外国人への医療情報提供

- ①外国人に向けた医療情報サイトの充実
予算:180千円
- ②大阪府医療機関情報システムによる情報提供
- ③宿泊施設、観光部局と連携した情報発信
- ④大阪観光局コールセンターの医療機関紹介サービスとの連携

